

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 58 回 やぶにらみ、アテネオリンピック

アテネオリンピックが、無事終わった。テロの無差別襲撃を警戒する中始まった今回のオリンピックは、我国にとっても、意義深い大会だったと言えよう。

その一つは、開始前の大方の予想を裏切った、見事なまでの日本人選手の好成績である。メダル獲得数は、日本が始めてオリンピックに参加して以来、過去最高であり、特に女性選手の活躍が顕著で、結果、多くのヒロインが誕生した。アテネとの時差の関係で、テレビ放映が深夜に集中したにも拘らず、軒並み高視聴率を記録し、日本国内「寝不足」だらけの17日間だった。

その間、我国スポーツ界の王者「野球」では、工藤選手（巨人）の200勝、イチロー選手（マリナーズ）の、新人から4年連続200本安打の大リーグ新記録、更にシーズン3度目（通算4度目）の月間50本安打という、前人未到の大記録が達成された。オリンピックさえなければ...と、マスコミの扱いや、国民の関心度の低さに、嘆き、怒り狂っている野球「オタク」が目につくようである。

そういえば、オリンピックの生中継の視聴率が、女子レスリング瞬間視聴率で40%超という異常事態を記録した反面、テレビ朝日の広島VS巨人戦が4.3%というのが、この状況をもの見事に、物語っている。

今回の応援ソング、JOCの公式ソングがあるにも拘らず、テレビ各局やスポンサー企業が発表したので、公式ソングが何であるかを知る人は、むしろ少ない。KOKIAの「歌がチカラ」という曲、小生全く知らなかった。この中で41万枚と、圧倒的にヒットしたのはサザンの「君こそスターだ」、トヨタのCMと共に毎日流れていた、あの曲である。銀メダルが日テレの嵐、「Hero」、24時間テレビと連動したようである。そして銅メダルは、NHK・ゆずの「栄光の架橋」だそうである。「はあ～、あの日口～マで～」と流れた、巨匠・三波春夫先生の歌が、単純で、分かりやすかったと、懐かしがっているあなた、ほとんど「化石」状態である。

小生、実はスポーツがあまり好きでない。テレビでわざわざ見るとすれば、巨人戦とプロレスに限っている。「オリンピックなんぞ...」と、家族に嘔吐していた頑固親父が、終わってみると、一番「寝不足」のようである。家族に誰も気付かれないよう、一人で、たくさんの「感動」を味わっていた。偏屈で素直でないのは、分かっている。それについても、「野球」の不甲斐なさ、実力は他チームを圧倒しているにも拘らず、勝てなかったあの「野球」を、今の「合併」問題の「くすぶり」と、重ねて見てしまうのは小生だけか？

理屈は兎も角、やっぱり、アニマル浜口の娘は、可愛かった。